

ゆとり世代の叱り方・教え方Q&A(第17回)

「やる気を失う」「入社を後悔する」をどうする？

2017.08.09

ゆとり世代の叱り方・教え方を具体的なケースで学ぶ連載は今回の第17回で最終回です。「上司が無能だといってやる気を失う」、「こんな会社だと思わなかったと繰り返す」ケースの対処法です。



Q

「ねえ先輩、うちの部長、無能ですよ。こうささやいた新入社員が最近、仕事にやる気を見せません。上司の能力と本人の仕事とは本来、関係がないと思うのですが……。」

A 環境が悪いとやる気が出ません。「腐ったら自分が負け」と悟らせましょう。

ゆとり世代は、環境依存型です。上司が厳しいとやる気を失い、上司が優しいとそれに甘えて努力を怠り、上司が無能でも「ついてない」とやる気を失います。

確かに企業には、上からの質問をすぐ部下に振ったり、自分の苦手なパソコンの操作を若い部下に何度も聞いて仕事を中断させたりといった「できない”上司もいるでしょう。新入社員からすれば、配属される前に職場に対して高まっていた期待値と、実際の現場のギャップに、いわゆるモチベーションクライシスを起こしているのです。

本来は「現場には有能から無能まで、さまざまな上司がいる」ことを研修で教えておかなければならないのですが、それをしている企業はほとんどありません。ですから、新入社員を現場へ配属した後に、こうした問題がよく起きています。

まずは環境の悪さに影響されない(甘えない)気持ちが持てるよう、仕向けてください。「本来なら上司がやる分まで、仕事を経験できるチャンス」「反面教師として、何が会社の中でダメなのかを学べる」などの言葉がいいでしょう。

有能で教え上手な上司でなければ自分を鍛えることができない、というゆとり世代の常識は誤りです。自分が置かれた環境をどう生かして自分の(仕事の)筋肉を鍛えていくか。それを考えるのは自分自身であり、腐って何もしないままであれば、損をするのは結局、自分自身であると理解させましょう。

【対処法のポイント】

無能な上司だからチャンスがある、と考えさせる。

Q

「こんな会社とは思わなくて……ガッカリしました」と、今年入社した新人から、もう3回くらい聞きました。
「じゃあ辞めたら？」という言葉がのどまで出かかっています。… 続きを読む